

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) アキカワタクヤ
日本大学	商学部	秋川卓也ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) チームロービジョン	フリガナ) イジマ ナナ	4	無	
Team ロービジョン	飯島 那奈			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

ロービジョン体験眼鏡

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

ロービジョンの認知～体験教室から学ぶ正しい配慮～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

視覚障害の一種であるロービジョンの認知度が低いために、ロービジョンの方が不当な扱いを受けているという問題がある。本研究では、①ロービジョンの認知を拡大させること。②不当な扱いをなくし、適切な配慮を身につけること。以上の二項目を目的とし、問題の打開案を提示する。

## 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

現在、日本には約 164 万人の視覚障害者がいるとされており、そのうち約 90%をロービジョンが占めているにも関わらず、あまり知られていない現状がある。そして認知が低いことにより、不当な扱いを受けたり、適切な配慮をしてもらえないという現状もある。

ロービジョンは視覚障害の一種であり、医学的に近視や乱視といった症状とは異なり、メガネを使用しても矯正することはできないという特徴がある。また視力が弱いだけでなく、視野が狭い視野狭窄、視野の中心が見えない中心暗点、色が異なって見える色覚異常といった症状も含まれている。ロービジョンの方の見え方は人それぞれ異なっているため、必要とする配慮も人それぞれである。



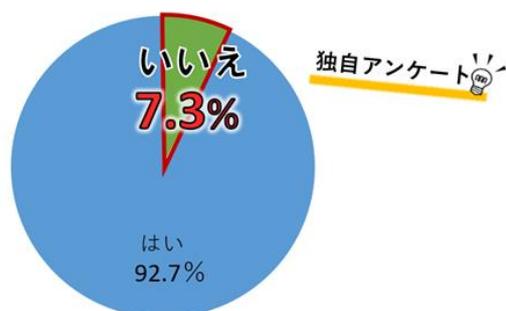
(※ロービジョンの見え方の例 左から視野狭窄、中心暗点、色覚異常)

私たちが 303 名の健常者を対象に、「ロービジョンの認知度」について独自に行ったアンケートでは、70%を超える人がロービジョンを知らないことが分かった。

認知が低い背景として、ロービジョンに特化した教育があまり行われていないことがある。小学校で義務教育として行われている福祉学習においても、ロービジョンについて詳しくは触れられておらず、「日常生活を送る上でより困難をきたす。」という理由で、全く見えない全盲が中心に扱われていることが分かった。

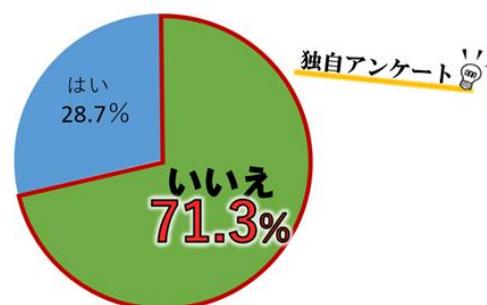
そのため、ロービジョンを知る人が少なく、また、知らないことで理解ができずに不当な扱いをしてしまう実情があるのではないかと考える。ロービジョンの方が受けた不当な扱いの例として、電車などで白杖を持った当事者が席を譲られた後に、スマートフォンを操作し始めたことにより、「見えるのに見えないうりをしている。」と言われたという体験談が新聞に掲載されていた。この体験談のように、障害者であるとうそをついていると誤解をされてしまうことがある。これは、「白杖を持っているのは目が完全に見えない人しかいない。」という誤った認知と、ロービジョンという障害の認知の低さが原因である。

Q.全盲を知っていますか？



※アンケート実施期間 (2018年9月7日~9月14日)

Q.ロービジョンを知っていますか？



※アンケート実施期間 (2018年9月7日~9月14日)

(※全盲・ロービジョンに関する認知調査 有効回答数 303)

### 3. 研究テーマの課題

本研究の課題として、ロービジョンが知られていないために、当事者が肩身の狭い思いをしていることから、「ロービジョンの認知の低さ」及び、「適切な配慮ができていないこと」が挙げられる。

### 4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

上記の課題解決として、ロービジョンの認知を向上させ、正しく理解した上で、適切な配慮ができるようになることが必要であるとする。そのため実践力の向上にもつながる体験教室を行う。

### 5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

体験教室を行うにあたって、これまでにあった見える、見えないという視点ではなく、あまり注目されていなかった見えづらいという視点に着目した。そして体験教室は下記の3点に要点を置いて作成した。

- ①事前学習：予備知識を学ぶことで、その後の学習をより効果的に行うことができる。
- ②疑似体験：体験をすることで心情の理解に繋がり、座学では学べない実践力の向上に繋がる。
- ③事後学習：体験会後に感想を言葉にすることで、学習内容の確実な定着につながり、学びを深めることができる。

体験教室の流れとしてはまず、①事前学習で見え方や誘導方法を説明したのち、②疑似体験として歩行・誘導体験を行う。

歩行体験の際、白杖とロービジョン体験眼鏡を使用する。③事後学習では児童に質問を行い、体験した内容を実生活にあてはめて応用できるのかを確認する。

この体験教室の対象は小学生とした。その理由として、ロービジョンを中心とした教育が行われていない点、他の年代と比べて吸収力がある点、家族への認知の波及効果を見込める点が挙げられることがある。

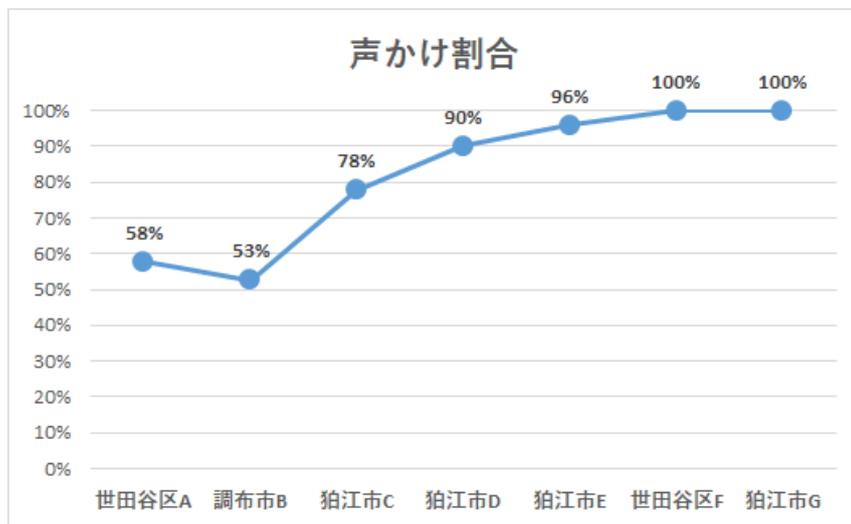
そして、体験教室をより良いものにするために改善を繰り返し行った。改善を行う上で、実際に合計29名のロービジョンの方にお会いし、お話を伺った。話の中には、「商品についているタグが読みづらい。」、「すれちがう人の顔が認識しづらい。」、「バスの行き先を表示している電光掲示板が見づらい。」などといった体験談があり、日常生活において困っている場面が数多くあるということを知った。これを体験教室の説明会の中で、ロービジョンの方が困っていることとして紹介し、児童が日常に置き換えて考えられるようにした。そのほかには、誘導の重要性を知ってもらうために、コース上にひとりで歩く箇所を用意した。

## 6. 結果や今後の取り組み

訪問調査などで得られたお話をもとに実施・反省・改善をくりかえし行った結果、体験会後に児童に聞いた、「町で困っている目の不自由な人がいたら声を掛けますか？」という質問に対して、「はい」と回答とする割合は改善を重ねるごとに増加していった。加えて、児童に感想を聞いたところ、「声かけ」や「歩くスピードに気をつける」といった感想が多く得られ、「声かけや誘導方法を学ぶ」という目的をおおむね達成することができた。結果、体験教室には合計376名の児童が参加した。

また保護者アンケートからは、「ロービジョンの方の見え方など初めて知ることがあった」、「ロービジョンという言葉は初めて知った」といった感想をいただき、小学生を対象とした理由の一つでもある家族への波及効果を確認できたと考える。

さらに多くの人にロービジョンを知ってもらうために体験教室のマニュアル化を進めている。マニュアルを作成することで私たち以外の人でもこの体験教室を実施することができるようになり、ロービジョンの認知のさらなる拡大を見込むことができると考える。そのため今後の取り組みとして、体験教室のマニュアルを完成させる。



(※体験会後に児童に聞いた「町で困っている目の不自由な人がいたら声を掛けますか？」という質問に対しての「はい」と回答とした割合の変化を表した)

## 7. 参考文献

- ・新井千賀子[2014]『高齢者の視覚障害への対応、ロービジョンケア』日本老年医学会雑誌第51巻4号、p336-341
- ・『「白杖＝全盲とは限りません」弱視の人ら、誤解解消へグッズ』朝日新聞 2016年11月22日 朝刊38ページ
- ・三浦和尚[2009]『ことばの学び 第19号』三省堂国語教育 2009/5/14発行 4-7
- ・厚生労働省[2003]『身体障害者手帳』厚生労働省ホームページ  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/shougaishahukushi/shougaishatechou/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/shougaishatechou/)、2017年10月2日アクセス
- ・内閣府[2017]『障害者白書』内閣府ホームページ  
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html>、2017年10月2日アクセス
- ・内閣府[2013]『障害を理由とする差別の解消の推進』内閣府ホームページ

<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>、2017年10月3日アクセス

- ・藤咲淳一 幸田るみ子 中里克治[2014]『視覚障害者が白杖を使用することの心理的困難さに関する研究』東京福祉大学・大学院紀要 第4巻第2号、p105-114
- ・真野清佳 戸城匡宏 中村桂子 稲泉令巳子他[2013]『ロービジョンエイドとしての携帯電話の利用状況』日本視能矯正学会 p137-145
- ・赤田信一 [2016]『小学生を対象とした「喫煙の防止」に関する授業の教育の効果と家庭への波及効果』静岡大学教育実践総合センター紀要. 25, p. 83-92
- ・高橋聡 北郷仁彦 松川基宏 竹内弥彦 [2015]『千葉県理学療法士会での小学校体験学習活動報告』第50回日本理学療法学会大会
- ・久保山茂樹 [2006]『通常の学級の児童が障害について学び理解を深めるための教材と学習プログラムの開発』国立特殊教育総合研究所教育支援研究部
- ・今枝史雄 西山寛弥 金森裕治 [2014]『私立の小・中学校における障害理解教育の実態に関する研究』大阪教育紀要 第IV部門第63巻 65-80
- ・西館有沙 水野智美 徳田克己 [2016]『地域で実施されている福祉体験講座の問題点と改善策の提案』障害理解研究 (17) 1-16
- ・篠ヶ谷圭太[2012]『学習方略研究の展開と展望』教育心理学研究 第60巻第1号

#### <企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**